

社会実験の概要

期間：平成26年3月1日(土)～平成26年3月23日(日)

内容：

- 1. 萩往還を安心・安全に楽しく歩けるための案内・誘導実験
 - ①案内・誘導標識等の設置実験
 - ②タクシー事業者等と連携した送迎サービスの実験
- 2. 萩往還のトレイル維持管理システムの構築のための実験
 - ①萩往還の維持管理状況の把握
 - ②道路・街道の付帯施設(物)への企業広告掲出等収益事業による維持管理の仕組みづくり
 - ③住民やNPOによる維持管理の仕組みづくり



実験結果

●ガイドウォーク時に送迎タクシー利用アンケート

- サンプル実績76人
- 満足度 91.8%
- 必要性 83.6%
- 待ち時間 100%
- 特急・路線バス利用:利用度 5.3%
- 宿場町バス停留所利用:利用度 2.9%、継続希望 30%

●案内・誘導標識に関するアンケート(モニター、住民等)

- 視認性・的確性・有効性
 - ー評価は高い
- 位置情報の有効性
 - ー通し番号の位置情報については気がつかなかった方が大半
- 危険箇所看板の視認性
 - ー通行車両に対して設置していたため危険箇所の看板に気がつかなかった方が大半

●協賛依頼事業者等へのアンケート

- ・協賛依頼企業25社
- ・タクシー事業者60人
- ・バス事業者18人
- 協賛広告の評価
 - ー協賛広告について一定の理解と効果を感じている
 - ー広告効果とCSRの両方を満たすことができる
 - ー広告収入の使途や意義をPRすることで賛同者が増加
 - ー萩往還の知名度が上がることで広告効果も高まり、協力者も増加すると思われる

●維持管理の仕組みに関するアンケート

- ーウォーカーは維持管理に対し作業協力には肯定的
- ーゴミ拾いなど無償での簡易作業を希望
- ー遠方からのウォーカーの場合は作業ではなく、募金など資金的な協力を望んでいる

本格実施に向けた課題

(1)萩往還を安心・安全に楽しく歩けるための案内・誘導について

- ー既設の案内・誘導標識の設置箇所と設置状況の把握→全線の設置箇所位置図の作成(管理台帳)
- ー利用者(歩行者)のための「萩往還」トレイル利用ルールづくりの検討
- ー2次交通の整備(タクシー送迎サービスや自家用車の回送サービスの仕組みづくり、宿泊施設とタイアップした送迎サービスの検討)

(2)萩往還トレイル(歩き道)の維持管理システムについて

- ー地元企業の場合、金額的には(年間)1万円程度が無理のない(継続することも可能な)金額であることがわかった。また、協賛企業のほとんどが継続的な協力を表明。
- ー協賛した理由については、ほとんどの企業が広告効果よりも「地域貢献・企業CSRの一環」を理由として挙げていた。
- ⇒今後は、萩往還による宣伝効果や地域貢献に関する説明等により、新たな協賛企業を増やし、地域が一带となった萩往還の維持管理体制を確立することが必要。さらに、利用者のアンケートでは「維持管理のために募金をしてほしい」との意見が多くあったことから、今後ウォーカーへの利用料の徴収を検討、あるいはトレイルマップを有料にするなどの維持管理費の捻出方法も検討すべきと考えられる。
- ー沿線全体が連携して来訪者の受け入れ態勢を整えていくことが今後の課題。さらにそれらの拠点を維持管理のためのステーション化していくことも必要と思われる。